

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会  
第26回再生普及行動計画ワーキンググループ議事要旨（案）

日時：平成26年4月23日（水） 16：00～18：00  
場所：釧路地方合同庁舎4階 第三会議室

【出席者（敬称略）】

<個人>

- ・新庄 久志 釧路国際ウェットランドセンター主任技術員・環境ファシリテーター
- ・高橋 忠一 再生普及小委員会 委員長
- ・清水 信彦

<団体>

- ・釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 中島 忠雄
- ・釧路シャケの会 小杉 和寛

<関係行政機関>

- ・環境省自然環境事務所 所長 西山 理行
- ・環境省自然環境事務所 野生生物課課長 大林 圭司
- ・国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課 上席治水専門官 市川 嘉輝
- ・国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課 治水専門官 大田 義博
- ・林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林ふれあい推進センター 重光 秀人  
高見沢 敏男

<再生普及行動計画オフィス>

- ・環境省釧路自然環境事務所 国立公園・保全整備課課長補佐 杉本 頼優  
釧路湿原自然保護官 渡邊 雄児
- ・公益財団法人北海道環境財団 事務局次長 久保田 学  
安田 智子

開会のあいさつ（環境省杉本補佐）

- 参加者全員自己紹介
- 以降、新庄座長により進行

**議事 1 2013 年度再生普及行動計画 WG の取組報告**

**議事 2 「ワンダグリンダ・プロジェクト 2013」の活動報告**

**議事 3 「ワンダグリンダ・プロジェクト 2014」の応募状況について**

**議事 4 2014 年度再生普及行動計画 WG の活動予定**

- 環境省渡邊自然保護官より資料 1～4 に基づき説明。

大林委員 竹中さんの活動は？

安田 羽幌の取組を釧路に発信すると共に、釧路のような取組を羽幌にも取り次ぎたい

**議事 5 再生普及行動計画の見直しについて**

- 北海道環境財団久保田より資料 5 に基づき説明。
- 5 分程度時間をとり、各自アンケート調査票を元に各自意見を検討した。

大林委員 この調査はいつからの変化を考えればよいのか？それが分からないと答えにくい。

久保田 行動計画は 5 年間、全体構想は 10 年間だが、考えていただける時間スケールは回答者により異なると思う。

新庄座長 追加してそうした案内を流せるか？

久保田 今日ご指摘があれば、追加して連絡する。

新庄座長 なかなか回答が難しい。

**Q1-1**

高橋委員 学校教育のことか？

久保田 社会教育も含む。

高橋委員 この 5 年間はある程度意識ある先生は増えたように感じる。

市川委員 立場により質問の受け止め方が変わる。

（全体構想の該当ページを追加配布）

**Q1-2**

清水委員 ワンダグリンダを WG がまとめて HP 等である程度発信できた。メディアとの連携は不足しているかも。

高橋委員 参加する人達が固定化してきていることは感じる。

清水委員 フィールドワークショップは新しい人も参加している。

**Q1-3**

久保田 カヌー利用ガイドラインはできた。

#### Q1-4

新庄座長 どのようなことが対象かよくわからないかもしれない。  
西山委員 ここにエコツーリズムが含まれることなどは全体構想を読まないといけない。  
新庄座長 エコツーリズムに関わっている立場からは、そこはある程度進んでいる。

#### Q1-5

新庄座長 野積みの廃車はなくなった。  
市川委員 旧川復元や湿原再生には着手している。  
新庄座長 それは成果といえる。野積みは減ったが産廃と処分場は増えた。

#### Q2-1

中嶋委員 以前に比べると情報発信が変わった。道新でも自然行事があちこち載るようになった。FMくしろの大西先生の番組も。温根内の行事も子どもたちの参加が増えたとし、ふれあい行事の参加も多い。  
市川委員 昨年は長期滞在者が見学会に参加してくれた。

#### Q2-2

大林委員 集中月間の設定と宣伝で参加者は増えた。  
新庄座長 確かにずいぶん増えた。ミニコミ誌やネットも。  
高橋委員 これも長期滞在者が多くはないが参加してくれた。  
新庄座長 婚活（ヒシコン）もあった。  
大林委員 結婚まではいたらないまでも、友達づきあいは続いているようだ。  
西山委員 自然再生に関わっているけれどもそれを認識していない人もいる。その掘り起こしができるとよい。  
新庄座長 そうした気づきの機会があるとよい。  
西山委員 そうした取組も自然再生であることを伝えられると良い。  
久保田 第1期行動計画は、それを進めてきた。

#### Q2-3

大林委員 ガイドマップ作りは成果といえる。先日お披露目会があったが、村長が評価してくださったことは嬉しい。  
新庄座長 選択肢の設定が回答者には難しいかもしれない。  
西山委員 人を繋ぐ努力はしてきたが、地域の持続的発展に貢献できたかはまた別。地域そのものが右肩上がりに発展していない中で、努力はしてきたが、評価の仕方が分かれるかも知れない。  
高橋委員 地域の発展が見込めない中では難しいかも知れない。  
新庄座長 「発展」は厳しいかもしれない。  
西山委員 行動計画ではそうした取組を進めることではあるが。  
新庄座長 そうした表現も、次回に活かした方がよい。

#### Q3

高橋委員 （全体構想の表現に具体性が欠けるという意見について）  
10年前は、たしかにそうした具体性に欠けることばが多い。  
新庄座長 何を対象にしているのか、具体的なものである必要がある。  
高橋委員 第2期の計画を作る時を思い出すと、楽しんだり学ぶだけではなく、自ら行動することに力点を置いた。第3期でもそうしたメインのテーマを考える必要がある。まだ、「参加する行動する」を卒業した、というわけではない。  
新庄座長 地域と関わり人をつなぐとはどのようなイメージか？  
大林委員 湿原はまだまだ身近ではない人が多い。市民でも行ったことがない人が結構いる。暮らしや産業ともっと近づけることを行いたい。  
新庄座長 湿原に行ったことのない人を無くそう、ということか。「やちまなこにはまったことのない人集まれ」というようなイメージは考えられる。

高橋委員 温根内までは行く。そこから湿原に誘う道があるとよい。  
新庄座長 今まで湿原に行ったことのある人を使ってそうしたことをやればよい。「湿原に行ったことのない人！」というイベントは面白いかも知れない。  
大林委員 連れて行ってくれるなら行きたい、という人はいる。  
市川委員 釧路でも転勤などで来た人は比較的行くようだが、昔から住んでいる人を連れて行くのは難しいのかも知れない。  
大林委員 どこでつかむかは難しい。  
高橋委員 そんなに敷居は高くない。重装備は要らない。  
新庄座長 ただ、ガイドは必要。NHK の記者を連れて行ったが、長く住んでいてもヤチマナコは知らなかった。「湿原行ったことのない人を無くす運動」等のキャンペーンをやるのはいいかもしれない。「湿原事務所に行ったことのない人」を無くすのもいいかもしれない。

杉本委員 (回答選択肢の「2) ある程度進んだ 3) あまり進んでいない」の間が広すぎるのではないかとという意見に対して)

選択肢は変えなくてよいか

新庄座長 課題のところによくよく書き込んでいただくよう、メールで案内を。

大林委員 全体構想の該当ページも PDF で送った方がよい。

## その他

大林委員 2014 は交流会は行わないのか？

渡邊委員 今年度は計画見直しがあり、有志の検討の機会等にワンダグリンダ参加者にも集まってもらい、交流会ができるとよいと考えている。秋頃か。

高橋委員 これまで報告書のお披露目でやってきた。

久保田 本当は FWS でそれができるとよい。

新庄座長 秋口に誰でもでられる FWS を検討してみてもどうか。湿原保護官事務所でやってみてはどうか。裏の池や猛禽のケージは何なのか、伝える。秋は天気が良い。

高橋委員 通過する人は結構何なのか分からず、気になっているかも知れない。

中嶋委員 ワンダグリンダ報告書の中には調査研究活動もあるが、その内容、成果等をあまり知る機会がない。

新庄座長 そうした情報の所在も載せればよい。

西山委員 こともエコクラブくしろがエコクラブ 3 月の全国フェスティバルで壁新聞部門の環境大臣賞を受賞した。ボランティアレンジャーの会はみどりの日の自然功労者の大臣賞を受賞した。

第 26 回行動計画ワーキンググループを閉会した。